

DX時代の企業と情報システム～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割とイノベーションを生み出す超上流作法【会場】（4124147）

DX時代の企業と情報システムにおいて大きく2つの視点から学びます。まずは次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割について、企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。次にイノベーションを生み出す超上流作法について、新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

開催日時	2024年1月16日(木) 10:30-17:30会場 2024年1月17日(木) 10:30-17:30会場
カテゴリ	事業開拓セミナー・技術講習会・IT教育・IT企画評議・IT展示会
対象	IT関連企業・団体・個人
概要	「第1回 IT実践セミナー」(代表登壇) AIを用いたデータ分析によるマーケティング、販売までを指し、基幹システムのグローバル展開から先進技術を活用したAIプロジェクトに参画し、J-UAS活動を通じて、既存ビジネスの変革や企業内イノベーション手法を研究。実戦的思考によるアイデア模索と論理的思考からの変換性と実践性練習をメソドロジーに落とし込み、DXプロジェクトに対応するフレームワークとしてイノベーション経営カレッジ（INC）にて公開。出典スタイルの異業種共創プログラム（Challenge Camp）として、株式会社クラウド一筋で実施している。
参加料	J-UAS直会: 77,760円+税 一般: 10,280円 (1名あたり支払費用込、チケット込み) [受講料と料金区分]
会場	一般社団法人日本実業セミナー・ユーザ協会 (日本実業セミナー・ユーザ協会)
登録期限	1月15日(水) 23:59(日本時間)に登録完了の方へ
登録料	無料、ダーツ競技
定員	25名
発表者/ポインター	当社IT実践セミナー対象のセミナーです。【登壇】ポイント
IT実践セミナー	12

主な内容

■ 受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■ テキスト

当日配布

■ 開催日までの課題事項

特になし

DX時代の企業と情報システムの関係において大きく2つの視点から学びます。

まずは企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。

次にイノベーションを生み出す超上流へのアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

◆DX時代の企業と情報システム 1

～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割

DXという言葉を日常的に聞くようになりましたが、ユーザー企業やその情報部門において、DXとはどのような意味や範囲をさすのでしょうか。

ユーザー企業の経営層やユーザー部門からも最新テクノロジーを活用した業務変革の期待をされますが、流行りのAIや高価なパッケージソフトを導入すれば、IT先進企業に生まれ変わるものではありません。

ビジネスとテクノロジーの両側面を理解し、距離（関係性）を埋めるのが情報システム部門（あるいはDX推進部門）の大きな役割です。従前の経験や勘などではなく、データとアルゴリズムによって、ビジネスの意識決定や課題解決などを行うにはどうしたらよいか一

次世代型のビジネスプロセスエンジニアとしての役割を学びます

◆DX時代の企業と情報システム②

～イノベーションを生み出す超上達作法

デジタイザーションとデジタライゼーション、言葉は似ていますが、意味は大きく異なります。

DXを推進するにあたり、必要なのはデジタライゼーションです。

それでは、これに必要なスキルは何でしょうか

問題解決や生産性向上のあらゆる場面において、ロジカルシンキング（論理）はビジネスパーソンには当然必要です。

そこからさらに、新しいことを考へ出す感性、イノベーションを生む創造力が不可欠になります。

本講座では、ビジネスイノベーションのしくみと新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を手を動かしながら学んでいきま

■ 参加者の声

考え方と事例を交えて話していくがいため、とても理解しやすかったです。

考え方や事例を交えて話していただいたため、とても理解しやすかった。

実践したローカルな技術や知識を基にしたものが多くの大きなバグやグローバルな問題を持つても理解しやすい内容を感じた。